

成田空港高速鉄道株式会社さま

「魅力ある成田空港駅への変身プロジェクト」で
駅構内のデジタルサイネージ化を推進！

14台の65V型インフォメーションディスプレイが乗降客を迎えます



■導入商品

インフォメーションディスプレイ

PN-HW651 (65V型) × 10台 (成田空港駅)

PN-HW651 (65V型) × 4台 (空港第2ビル駅)

PN-K321 (32V型) × 1台 (事務所)

コンテンツ配信表示システム e-Signage S (クラウドサービス)

■導入先

成田空港高速鉄道株式会社さま

<https://www.narita-kousoku.jp/>

- 東京都中央区東日本橋
- 鉄道事業法に基づく第三種鉄道事業 他

成田空港高速鉄道株式会社さまは、JR東日本と京成電鉄に対し施設を提供し、両社と密接な連携のもと安全かつ良好な鉄道輸送サービスを運営しています。両社が乗り入れる「成田空港駅」「空港第2ビル駅」は、ピーク時には1日5万人以上の乗降客が訪れる、いわば「陸の玄関口」となっています。

こんなソリューションを実現しました

導入前の課題

空港を利用するさまざまなお客様のため、多国語表示や複数コンテンツ表示が求められていました。また成田空港駅・空港第2ビル駅という離れた拠点の案内表示を一括管理する方法はないか模索していました。

65V型インフォメーションディスプレイは、柱のサイズにぴったり。

使い勝手のよいクラウドタイプの配信システムで、コンテンツをタイムリーに更新できる。

カートやスーツケース接触対策を施した特注筐体で、見やすさと安全性をカバー。

シャープ商品 導入事例



成田空港高速鉄道株式会社
総務部長 内藤 宣行 さま

■導入の背景

大規模スポーツイベント開催を控え、「魅力ある成田空港駅への変身プロジェクト」を推進！

2020年に成田空港駅及び空港第2ビル駅は開業30周年を迎え、施設の改修が必要な時期となりました。施設改修の一つとして、災害時などの緊急時にお客様に必要な情報を提供するためのデジタルサイネージ導入が決まりました。平常時には広告を放映することで収益を上げるために、まず導入費用を抑え、さらに運用コストをかけず簡単な配信操作で複数の場所から情報提供できるサイネージシステムを探していました。

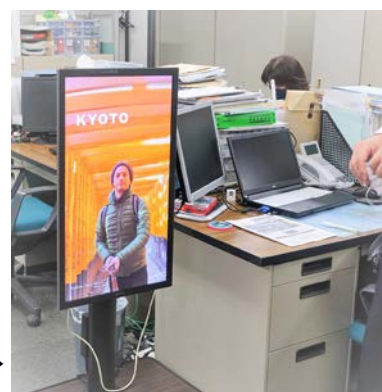
選ばれた理由

クラウド型コンテンツ配信表示システム e-Signage Sの使い勝手の良さが、採用の決め手

「デジタルサイネージジャパン (DSJ)※」に2年通って研究した結果、導入後のアフターフォローや運用が重要だとわかり、信頼のおける日本メーカーを検討しました。中でもシャープのクラウド型コンテンツ配信表示システム e-Signage S の大変わりやすいシンプルな仕様が気に入り導入を決めました。専用の端末が要らない、現地でiPad等 モバイルからも配信できる、など使い勝手の良さに満足しています。

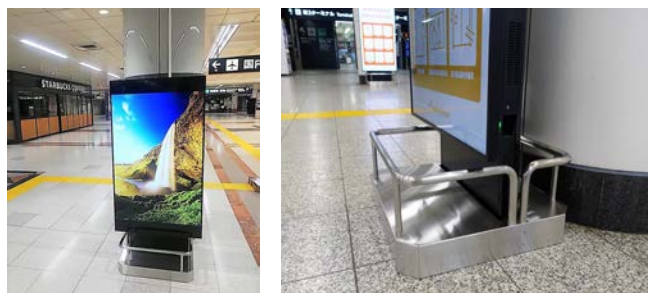
※ 幕張メッセで毎年開催される「デジタルサイネージ」産業イベント

事務所デスク脇の32V型ディスプレイに「テスト配信」して表示確認 →



導入後の効果

明るく広い構内でもひとときわ鮮やかな液晶画面が目を引く



設置後すぐにコンテンツ出稿の問い合わせをもらうなど、評判も上々です。タイムリーな情報表示による利用者の利便性向上や美しい映像が、旅行・観光のPRに繋がっています。

← カートやスーツケースが、ディスプレイにぶつかる「接触事故」を未然に防ぐ「スーツケース対策」を施した特注筐体で、見やすさと安全性をカバーしています。

■今後の展望

鉄道の運行状況や天気予報などを表示し、サービス性を高めたい

今後は、柱の両面で入国者/出国者向けそれぞれ別のコンテンツを表示したり、鉄道運行状況や各地の気象情報を表示するなど、より付加価値の高いデジタルサイネージ運用を目指します。クラウド利用なので、将来 設置台数を増やす場合も、電源の確保のみで増設可能な点も良いと思っています。



←ターミナル
(入国者向け)

→鉄道改札
(出国者向け)